The Osaka Chamber of Commerce and Industry
大阪商工会議所

記者発表資料

２０２２年１２月１９日

大阪経済記者クラブ会員各位

「大阪活力グランプリ２０２２」グランプリの発表について

〔お問合せ〕大阪商工会議所 総務企画部
企画広報室 （永長、堤）
ＴＥＬ：０６－６９４４－６３０４

１　本年度の被表彰者

＜グランプリ＞「大阪中之島美術館」

【理　　由】構想から約４０年を経て、民間企業が運営するＰＦＩコンセッション方式を導入した、全国初の美術館として開館。独自性のある展覧会と、建物の特徴的な外観や構造等が若年層の関心を高め、１０か月で来場者数累計５０万人を達成。水都大阪を象徴する中之島の新しい文化拠点として、大阪の魅力向上に大きく寄与した。

【被表彰者】大阪中之島美術館　館長　菅谷　富夫　氏

＜特　別　賞＞「オリックス・バファローズ」

【理　　由】最終戦での逆転で劇的なパ・リーグ連覇を果たしたうえ、２６年ぶりの日本シリーズ制覇は、大阪に大きな活力と勇気を与えた。

【被表彰者】オリックス・バファローズ　監督　中嶋　聡　氏

２　選考経過

○１０月２６日、第１回選考委員会において、ノミネートされた４１候補から１１候補を選出。

○１１月２１日、第２回選考委員会において、委員による投票を実施し、最多得票となった「大阪中之島美術館」がグランプリ候補に決定。また、「オリックス・バファローズ」を特別賞候補とした。

○１２月８日、正副会頭会議において被表彰者を決定した。

３　表彰式

日　時：１２月１９日（月）１５：４５～１６：００
（１５：３０～「会員交流大会」の中で実施）

場　所：大阪商工会議所７階　国際会議ホール

内　容：表彰状、トロフィーの贈呈／今宮戎神社より記念品を贈呈／記念撮影／受賞者による挨拶

以　上

参　考

「大阪活力グランプリ２０２２」の実施について

１．趣　旨

大阪の地域経済・産業発展に多大の貢献を果たした個人、法人、団体、施設等を大阪商工会議所会頭名で表彰し、その貢献をたたえるとともに、大阪のチャレンジ精神・パイオニア精神の発信・高揚を図る。

２．主　催

大阪商工会議所

３．協　力

選考委員としてご協力いただけるマスコミ各社
（大阪経済記者クラブ有志）

４．表彰対象

①対象者
個人、または法人、団体、施設等（会員・一般を問わず）
②対象地域
大阪府内
③対象期間
２０２１年１２月～２０２２年１１月

５．表彰要件

①大阪地域の経済振興・産業発展・イメージアップ等に貢献した個人、法人、団体、施設等。
②新機軸の製商品・サービスを開発、企業経営や事業推進等で革新的なビジネスモデルを導入、もしくは集客に多大の成功を収めた個人、法人、団体、施設等。

６．審査手続き

①大阪商工会議所内に選考委員会を設置。
（委員長：宮城勉専務理事／委員：別添委員（案）のとおり）。
②選考委員に被表彰候補案件の推薦を依頼するとともに、議員・部会長・委員長・支部長各位に候補案件の推薦を依頼する。
③第１回選考委員会で被表彰候補案件を１０件程度に絞る。
④第２回選考委員会で選考委員による投票を行い、正副会頭会議にグランプリ候補案件を推薦する。
⑤正副会頭会議においてグランプリを決定する。

「大阪活力グランプリ２０２２」選考委員会委員

（順不同・敬称略）

委員長	大阪商工会議所	専務理事	宮城　　勉
委　員	朝日新聞社大阪本社	経済部長	堀口　　元
	朝日放送テレビ	報道局ニュース情報センター長	佐藤　裕和
	ＮＨＫ大阪放送局	メディア展開部（広報）専任部長	藤田　浩之
	大阪日日新聞	大阪本社総局長	岡野　宏治
	関西テレビ放送	報道局報道センター　報道部長	青瀧　博文
	共同通信社大阪支社	経済部長	大西　大介
	産経新聞大阪本社	経済部長	藤原　章裕
	時事通信社大阪支社	編集部長	小山内 康之
	テレビ大阪	報道スポーツ局長	綱沢　啓芳
	日刊工業新聞社	西日本支社編集局長	尾本　憲由
	日本経済新聞社	大阪編集ユニットＨＲマネジャー	倉本　吾郎
	毎日新聞社	大阪本社経済部長	久田　　宏
	毎日放送	報道情報局プロデューサー	奥田　雅治
	読売新聞大阪本社	経済部長	中村　宏之
	讀賣テレビ放送	報道局次長兼報道部長	伏木　　崇
	大阪商工会議所	常務理事・事務局長	近藤　博宣
	大阪商工会議所	総務企画部部長	中村　裕子

（以上１８名）

【参考】「大阪活力グランプリ」歴代被表彰者一覧

○第１回グランプリ（２００２年１２月）

＜グランプリ＞東大阪人工衛星プロジェクト

（理由：東大阪市の青木豊彦・アオキ社長を中心に取り組んでいるなにわの人工衛星づくりは、まだ現実にはなっていないが、中小企業の技術力の高さを示し、夢を与えた）

＜特　別　賞＞アンジェスＭＧ

（理由：大阪大学の森下竜一助教授が創業し、９月２５日に東証マザーズに上場。ゲノム創薬分野としても、大学発ベンチャーとしても初の上場を果たし、バイオベンチャーへの関心を集めた）

＜特　別　賞＞南堀江界隈

（理由：かつて家具の街として栄えながら、取り残されていた「南堀江」を意欲とアイデアで、若者の街として再生。今や大阪になくてはならない街になっている）

○第２回グランプリ（２００３年１２月）

＜グランプリ＞なんばパークス

（理由：大阪ミナミの拠点として当地のイメージの高揚に貢献するとともに、開業６日間で来場者数が１００万人を突破するなど今後も継続的な経済効果が期待できる）

＜特　別　賞＞阪神タイガース

（理由：１８年ぶりのリーグ優勝は沈みがちな関西人や関西経済を元気づけた。経済効果以上の活気を大阪の街に戻した貢献度は大きい）

○第３回グランプリ（２００４年１２月）

＜グランプリ＞Team ＯＳＡＫＡ

（理由：産学連携によるサッカーロボ「ヴィジオン」を開発。「ロボカップ」国内大会（５月・大阪）、国際大会（７月・ポルトガルリスボン）でともに優勝。また、吉本興業、ダイヘンなども加わり４０社で６月に新組織「Roobo」を設立、ロボット普及に尽力している）

＜特　別　賞＞該当なし

○第４回グランプリ（２００５年１２月）

＜グランプリ＞新生・そごうと“心ぶら”の復活

（理由：そごう心斎橋本店が９月７日に５年ぶりに再オープンし、大阪ミナミに新たな賑わいの拠点が誕生。心斎橋筋商店街は、そごう開店を機に大人の街の復活に向け共同で取り組み。“心ぶら”という言葉も復活した感がある）

＜特　別　賞＞ガンバ大阪

（理由：Ｊリーグ発足後、関西勢として初のリーグ優勝を果たした）

○第５回グランプリ（２００６年１２月）

＜グランプリ＞天満天神繁昌亭

（理由：官に頼らず市民の寄付により、大阪に６０年ぶりとなる落語専門の定席を復活させた。伝統芸能という文化発信基地の常設で大阪のイメージアップに大きく貢献。さらに地元商店街の活性化も期待できる）

＜特　別　賞＞株式会社グローバルウイングス

（理由：ビジネスジェットサービス専門の航空ベンチャー。大企業をバックとしない独立ベンチャーで、関西国際空港を基地として利用するなど、大阪経済への貢献が期待できる）

○第６回グランプリ（２００７年１２月）

＜グランプリ＞シャープ株式会社

（理由：堺市に建設される**液晶パネル工場・薄膜太陽電池工場は、**雇用の拡大や関連企業の進出など、地域に大きな経済波及効果を与えることが期待される）

＜特　別　賞＞大阪フィルハーモニー交響楽団　音楽監督　大植　英次　氏

（理由：指揮者として国際的に活躍する一方、創立６０周年を迎えた大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として、「星空コンサート」や「大阪クラシック」など、大阪で気軽にクラシック音楽を楽しめる機会を創出している）

○第７回グランプリ（２００８年１２月）

＜グランプリ＞京阪電気鉄道株式会社

（理由：京阪中之島線の開業により、ビジネス街・中之島へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、街の姿を大きく変える起爆剤としての役割が期待できる）

＜特　別　賞＞山本化学工業株式会社

（理由：英スピード社の水着「レーザー・レーサー」が席巻した北京五輪の競泳種目で、独自開発した「バイオラバースイム」の技術力が注目を集め、大阪の中小企業の実力を世界にアピールした）

○第８回グランプリ（２００９年１２月）

＜グランプリ＞阪神電気鉄道株式会社

（理由：大阪・難波を経由して神戸と奈良を結ぶ新たな広域ネットワークを形成し、関西圏の活性化や利用者利便の向上に大きく寄与した）

＜特　別　賞＞水都大阪２００９と水辺の活性化事業

（理由：水の都の素晴らしさを再認識させるとともに、人々と水とのふれあいを促進させ、大阪の魅力向上に大きく寄与した）

＜特　別　賞＞井山裕太名人

（理由：史上最年少かつ大阪出身者として初めて囲碁の「名人位」を獲得した功績は大きい）

○第９回グランプリ（２０１０年１２月）

＜グランプリ＞あっぱれＥＶプロジェクト

（理由：環境性、デザイン性に優れた三輪の電気自動車（ＥＶ）「Meguru」を開発し、関西の中小企業の技術力をアピールした）

＜特　別　賞＞上本町ＹＵＦＵＲＡ

（理由：大阪新歌舞伎座を核にした新たな複合施設は、大阪の文化芸術の発信拠点として、活力向上とイメージアップに大きく貢献している）

○第１０回グランプリ（２０１１年１２月）

＜グランプリ＞大阪ステーションシティ

（理由：大阪の玄関口である大阪駅に、新たな人の流れを創出した功績は大きく、関西再生をリードする拠点として期待される）

＜特　別　賞＞大阪マラソン

（理由：大阪初の市民参加型マラソンとして多くの人を呼び込むとともに、まちの魅力を広く発信した）

○第１１回グランプリ（２０１２年１２月）

＜グランプリ＞新関西国際空港会社の設立とＬＣＣの就航

（理由：関西国際空港と大阪国際空港の一体運営、日本初の本格的ＬＣＣの就航により、地域経済の活性化に大きく貢献した）

＜特　別　賞＞１００周年の吉本興業、通天閣・新世界、ひらかたパーク

（理由：創業１００周年の節目の年に様々なイベントを実施し、大阪の魅力を広く発信した）

＜特　別　賞＞山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞受賞決定

（理由：大阪・関西における製薬・バイオ産業の活性化に大きなインパクトが期待される）

○第１２回グランプリ（２０１３年１２月）

＜グランプリ＞グランフロント大阪

（理由：大阪の新たな玄関口として、商業活性化や交流人口の拡大に大きく貢献するとともに、知的創造拠点「ナレッジキャピタル」における新産業創出も期待される）

＜特　別　賞＞該当なし

○第１３回グランプリ（２０１４年１２月）

＜グランプリ＞ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

（理由：人気映画「ハリー・ポッター」の世界を再現したエリアは、国内外から観光客を呼び込む新たな集客拠点となり、経済活性化に大きく貢献した）

＜特　別　賞＞あべのハルカス

（理由：日本一の超高層ビルとして新たな集客拠点を形成し、周辺地域の活性化に寄与した功績はグランプリに準ずる）

○第１４回グランプリ（２０１５年１２月）

＜グランプリ＞インバウンド消費を盛り上げたミナミの商店街

（理由：急増する外国人観光客の受け入れ体制を強化することで、「爆買い」による消費拡大に貢献し、大阪経済に活力を与えた）

＜特　別　賞＞該当なし

○第１５回グランプリ（２０１６年１２月）

＜グランプリ＞ＥＸＰＯＣＩＴＹと市立吹田サッカースタジアム

（理由：万博記念公園内に隣接してオープンした両施設が相乗効果を発揮し、北大阪に新たな賑わいを創出、大阪の活性化に貢献した。スポーツ施設の新たな公民連携モデルとしても注目される）

＜特　別　賞＞該当なし

○第１６回グランプリ（２０１７年１２月）

＜グランプリ＞ＴＷＩＬＩＧＨＴ　ＥＸＰＲＥＳＳ 瑞風

（理由：大阪から豪華寝台列車による西日本エリアを巡るコースが、旅の起点としての大阪の存在感を高めるとともに、西日本沿線の観光活性化に大きく寄与した。インバウンド効果の拡大も期待できる）

＜特　別　賞＞近畿大学

（理由：「近大マグロ」をはじめとする研究開発成果や、積極的に産学連携を進める等の実学志向が注目と共感を集め、４年連続で志願者数が日本一になるなど、大阪の大学の力を全国に示すものとして評価された）

○第１７回グランプリ（２０１８年１２月）

＜グランプリ＞「２０２５年国際博覧会の大阪・関西への誘致活動」

（理由：広範な市民レベルの活動が万博誘致に貢献した。なかでも「ＷＡＫＡＺＯ」は若い世代の代表として万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」について考え、世界規模の課題解決をめざすなど、未来志向で誘致機運を盛り上げた点が評価された）

＜特　別　賞＞株式会社木幡計器製作所

（理由：１９０９年創業の老舗企業が事業承継を機に新分野に進出し、様々な試行錯誤を経て、呼吸筋力を測定する医療機器を上市。中小企業の新分野進出のロールモデルと目されるとともに、ベンチャーのものづくりをサポートするイノベーション創出拠点も開設、新たな共創型のものづくりエコシステムとして期待できる）

○第１８回グランプリ（２０１９年１２月）

＜グランプリ＞百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録

（理由：大阪初の世界遺産登録を４度目の挑戦で達成した。大阪の存在感を世界にアピールし、インバウンドを含めた観光振興が期待できる）

＜特　別　賞＞該当なし

○第１９回グランプリ（２０２０年１２月）

＜グランプリ＞ＴＥＡＭ　ＩＮＡＲＩ

（理由：２０２５年大阪・関西万博のロゴマークを制作。赤い円で表した細胞が連なるユニークで斬新なデザインは、２０２５年に向けた希望を与えるインパクトがあり、万博への注目を高めるとともに、大阪のイメージアップに貢献した）

＜特　別　賞＞株式会社アックスヤマザキ

（理由：子育て世代のママが簡単に使える画期的なミシンを開発。コロナ禍の手作りマスク需要に対応するなど、巣ごもり生活で注目される手作り市場の裾野を広げた。創業７０年超の家庭用ミシン専門メーカーが打ち出した新機軸が、コロナ禍で生まれたニーズや新需要を的確にとらえた点が評価された）

○第２０回グランプリ（２０２１年１２月）

＜グランプリ＞サンコーインダストリー株式会社

（理由：持続可能な経済社会や、人やステークホルダーを重視した会社経営の実現が求められるなか、ねじ製品専門商社として、「取引先との共存共栄」や「社員の幸福を実現する」経営理念を実践。新型コロナワクチンの職域接種を、従業員とその家族、取引先や周辺飲食店にも声をかけ、従業員数の 3 倍以上の約 1600 人に実施した。地元経済を支える中小零細企業に、いちはやく安心して働ける環境を提供し、地域社会に貢献した点が評価された。

＜特　別　賞＞該当なし

以　上